

# 岩手県立総合教育センター

## 学習指導案様式【2020年度版】

### 【作成のねらい】

- 1 平成29年改訂告示（高校は30年）の学習指導要領に基づいて授業を行う際に使用する様式として作成した。
- 2 当センターにおいて所員及び長期研修生が研究に際して指導案を作成する場合の様式として作成した。
- 3 「教科」における統一の指導案様式として作成した。
- 4 学校等から指導案様式に係る問合せがあった際、「センターとしての様式」として情報提供できるように作成した。
- 5 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（以下「学習評価に関する参考資料」という。）」を参考として作成した。

### 【主な特徴】

- 1 従来の指導案にはない項目として「2 内容のまとめり」を設定し、学習指導要領との関連を明記することとした。
- 2 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて「単元（題材）の目標」作成し、児童生徒の実態、前単元（題材）までの学習状況等を踏まえて「単元（題材）の評価規準」を作成する、という流れに沿い、「3 単元（題材）の目標」「4 単元（題材）について」「5 単元（題材）の評価規準」という項目順とした。
- 3 いわゆる「児童（生徒）観」「教材観」「指導観」については、必要な情報に留めるため、箇条書きでの記述とした。
- 4 「指導上の留意点」については、教師のすることを明確にするため語尾を「～する。」に統一した。従来よく見られる「～させる。」は用いない。



第○学年○○科学習指導案

日 時：令和2年○月○日 ○時間目

対象学級：○○市立○○○学校 ○年○組

指導者：○ ○ ○ ○

1 単元（題材）名

2 内容のまとめ

3 単元（題材）の目標

- (1) 「知識及び技能」  
 (2) 「思考力、判断力、表現力等」  
 (3) 「学びに向かう力、人間性等」

4 単元（題材）について

- (1) 児童（生徒）について  
 ア  
 (2) 教材について  
 ア  
 (3) 指導について  
 ア

5 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	①

6 指導と評価の計画（○時間）

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1			

7 本時の指導（○時間目/全○時間）

- (1) 目標  
 (2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点（◇評価）
導入 分	1  【学習課題】	・

第〇学年〇〇科学習指導案

A-1

- ア 教科によっては「題材名」などとなる。
- イ 単元名の付け方は各教科の特性による。
  - ・「学習評価に関する参考資料」の事例等を参考にする。
- ウ 「教材名」は特に必要な場合示す。

日 時：令和2年〇月〇日 〇時間目  
 対象学級：〇〇市立〇〇〇学校 〇年〇組  
 指導者：〇 〇 〇 〇

- 1 単元名 田沢湖のクニマス問題を考えよう～自分の解釈を説明する～  
 教材名 「幻の魚は生きていた」(光村図書 国語1)

B-1

- ア 「内容のまとまり」とは、学習指導要領「2 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたもの。
- イ 「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となり得る。

2 内容のまとまり

第1学年

〔知識及び技能〕(2)情報の扱いに関する  
 〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読書」

B-2

数学 〔第2学年〕「C 関数」(1)「一次関数」  
 理科 第3学年〔第2分野〕(6)「地球と宇宙」  
 社会 〔公民的分野〕  
 C 私たちと政治 (2)民主政治と政治参加  
 技家 〔技術分野〕「A 材料と加工の技術」  
 (1)生活や社会を支える材料と加工の技術  
 音楽 〔第1学年〕「A 表現」(1)歌唱の活動及び〔共通事項〕(1)

C-1

まず、単元において身に付けさせたい資質・能力を明確化する。

3 単元の目標

- (1) 原因と結果の関係について理解することができる。 〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 「読むこと」において目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。 〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

C-2

- ア 「学習評価に関する参考資料」を基に記載。(語尾や書きぶりをしっかり参照!!)
- イ 資質・能力との関連を明記する。(明記の仕方は教科によって異なっても構わない)
  - ・特に必要のある場合(国語は必ず)は指導事項との関連も示す。(〔知識及び技能〕(2)ア)
  - ・国語は〔 〕(亀甲カッコ：内容として示されているもの)「 」(鍵カッコ：内容には示されていないもの)を例のように使い分けることとする。
- ウ 順番は、上から「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」とする。
- エ (1)(2)(3)と表記する(3つ以上の場合は(4)(5)と続ける)。
- オ 上記以外のことは教科の特性によって判断する。
  - ・音楽や美術の〔共通事項〕の扱い等

#### 4 単元について

##### (1) 児童（生徒）について

- ア これまで～という学習を行ってきた。
- イ 前単元において～という学習経験がある。
- ウ ～ということが身に付いてきている。

**D-1**

- ア 既習事項の習得状況を箇条書きで端的に示す。
- イ 2～3点程度とする。
- ウ 不十分さについては記述しない。

##### (2) 教材について

- ア 本教材は～という特徴がある（～に位置付いている）。
- イ 本教材は～に適している（ふさわしいと考える）。
- ウ 補助教材として～を使用する。

**D-2**

- ア 教材の系統性・特徴・価値を箇条書きで端的に示す。
- イ 2～3点程度とする。

##### (3) 指導について

- ア 本単元における言語活動（課題を追究したり解決したりする活動、数学的活動など教科の特性による活動）の特徴等（国語では「(3) 本単元における言語活動について」として項を起こしてもよい）、単元の大まかな流れ等
- イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫点等
- ウ 研究の手立てとの関わり（「(4) 研究との関わり」として項を起こしてもよい）

#### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 田沢湖におけるクニマスの絶滅の原因と結果を捉えるとともに、結果は次の原因となるという原因と結果との関係について理解している。 <u>(2)ア</u>	① 「読むこと」において教材文の二つの問いとその答え、一般化された筆者の意見に着目して田沢湖のクニマス問題を要約し、田沢湖のクニマス問題はどうか問題解決と言えるのかについて筆者の提言の具体的な内容を解釈している。 <u>C(1)ウ</u>	① 各時間の振り返りを生かして学習を進め、単元の課題に粘り強く取り組み、「田沢湖のクニマス問題」は、どうなることが問題解決と言えるのかについて筆者の提言に対する自分の考えをもとうとしている。

**E-1**

- ア 「学習評価に関する参考資料」を基に記載。（語尾や書きぶりをしっかり参照する！！）
- イ 必要に応じて指導事項との関連を明記する（国語は必ず）。((2)ア)
- ウ 表で示すこととし、順番は、左から 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 とする。また、観点ごとに①②と番号をふる。
- エ 「知識・技能」の評価規準を「知識」と「技能」に分けて設定する教科（外・音・美・保）の場合は、「知①」「技①」のように表記する。
- オ 目標を細分化して評価規準を作成することもあることから、目標の個数と評価規準の個数が一致するとは限らない。

6 指導と評価の計画（6時間）

4列版（「段階」がないもの）の例 ①

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<p>○タイトルから湧く疑問（「幻の魚とは？」 「どこで生きていたの？」など）をもちより、内容の大体をつかむ。</p> <p>○「田沢湖のクニマス問題」は、どうなることが問題解決と言えるのかを考えていくという単元の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材への興味や疑問が高まるようニュース映像風のPPを準備する。</li> <li>・抽象度が高い最後の文を取り上げ、どういう意味かを問いかけることで課題化につなげる。</li> </ul>	
2	<p>○序論、本論1、本論2、結論という部分に分節する。</p> <p>○田沢湖のクニマス問題のあらましを、短くまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの大きな問いの存在に着目するなどして、基本構成を捉えられるようにする。</li> <li>・二つの問いの答え、一般化された筆者の意見を構成要素とするように助言する。</li> </ul>	<p>【思・判・表①】 〔学習シート〕 二つの問いとその答え、一般化された筆者の意見に着目して田沢湖のクニマス問題を要約している。</p>

F-1

- ア 「学習活動」の主語は「児童（生徒）が」になる。  
イ 可能な限り具体的に示す。  
ウ 語尾は「する。」

F-2

- ア 「指導上の留意点」の主語は「教師が」になる。  
イ 生徒の学習活動を充実させるために教師が何をするのかを具体的に示す。  
ウ 語尾は「する。」  
※「させる。」は使用しない。

6 指導と評価の計画（6時間）

5列版（「段階」があるもの）の例

時	段 階	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	課題把握	<p>なぜ、私たちは必ずしも協働することができないのか。</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>よりよい公共的な空間を実現するための条件とは何か。</p>	<p>F-3</p> <p>ア 特に必要がある場合は「段階」等の欄を設け、学習過程等（課題把握・内容と構造の把握等）を示しても構わない。 イ 教科や研究によっては単位時間の学習課題や単元全体の課題等を示す場合もある。</p>	

6 指導と評価の計画（6時間）

4列版（「段階」がないもの）の例 ②

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
4 5 6	<p>○西湖のクニマスを守る条件に込められた筆者の思いを考える。</p> <p>○田沢湖周辺の人々が「クニマスの復帰を願う」理由や思いを話し合う。</p> <p>○筆者の提言「少しずつ歩いていかなければならない」のうち、「少しずつ歩く」の具体的な意味について考える。</p> <p>○「いかなければならない」という強い表現に込められた意味を考える。</p> <p>○学習のゴールシートへ記入する。</p> <p>○学習内容を共有及び相互評価するためそれぞれが考えをグループで交流する。</p> <p>○振り返りシート（学習の道しるべ）を記入し、単元を通して身に付いた力を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人と生き物」「人間と生物」という言葉の使われ方の違いに着目して考えられるようにする。</li> <li>・「人々」の範囲や願う理由をあげて話し合うように助言する。</li> <li>・「クニマスを守る条件」「筆者による定義」「人々の願い」に触れるなどして、考えるように助言する。</li> <li>・「絶滅の経緯」に触れるなどして考えるよう助言する。</li> <li>・ここまでの学習シートを見直しながら書き進めるように助言する。</li> <li>・ループリックに沿って相互評価できるよう声をかける。</li> <li>・本単元の目標に即して身に付いたこと、今後の学習や生活で生かしていきたいことについて記述できるように助言する。</li> </ul>	<p><b>【思・判・表①】</b> 〔ゴールシート〕 田沢湖のクニマス問題はどうなることが問題解決と言えるのかについて筆者の提言の具体的な内容を解釈している。</p> <p><b>【主体的①】</b> 〔観察・学習シート及び振り返りシート〕 各時間の振り返りを生かして学習を進め、単元の課題に粘り強く取り組み、「田沢湖のクニマス問題」は、どうなることが問題解決と言えるのかについて筆者の提言に対する自分の考えをもとうとしている。</p>

F-4

ア 必ずしも1単位時間ごとに区切る必要はない。  
イ 数単位時間をひとまとまりとして考える場合は、まとめて表記することになる。

F-5

ア 「5 単元の評価規準」を単元のどの時点で見取ろうとしているのかを明らかにする。  
イ 単元の中で適切に見取れるように計画する。  
ウ すべての単位時間に必ず評価規準を設けなくてもよい。（評価規準のない単位時間が存在することもある。）  
エ 数単位時間のまとまりで設定してもよい。  
オ 「学習評価に関する参考資料」の事例等を参考にする。

7 本時の指導（○時間目/全6時間）

(1) 目標

G-1

ア もっともシンプルな形（3列版）。これを基本とする。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点（◇評価）
導入 8分	【学習課題】	

G-2

ア 教科や研究に応じてアレンジ（4列版等）することもある。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点（◇評価）	資料（教材教具）等
導入 8分	【学習課題】		



(2) 展開 (記述例)

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 (◇評価)
展	<p>3 課題を解決する。</p> <p>(1) 提言までの流れを確認する。</p> <p>(2) 筆者の提言「少しずつ歩いていかなければならない」のうち、「少しずつ歩く」の具体的な意味について考える。</p> <p>ア 基本解釈の確認 イ 自分なりの解釈を考える ウ グループ交流 エ 全体交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「クニマスの里帰りは容易ではない。→ クニマスの住める環境ではない。→ 環境に対する一般化された意見 → この問題に対する筆者の提言」という流れになっていることを、生徒とのやり取りをしつつパワーポイントを用いて説明する。</li> <li>・基本として「田沢湖の環境 (水質) を元にもどす」をおさえる。そのうえで、本文中には直接的に「田沢湖の水質改善に取り組まなければならない。」などとは記述されず、あえて抽象的な書きぶりにしてあることから、多様な解釈が生まれる可能性があることを確認し、これまでの学びから解釈できることを話し合うよう指示する。</li> <li>・「クニマスを守る条件」「筆者による定義」「人々の願い」に触れるなどして、考え考えるよう助言する。</li> </ul>
開	<p>(解釈例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「クニマスを守る条件」から：人と生き物の関係を遠く冷たいものから近くてあたたかいものにし、つながりを取り戻していく。</li> <li>○「筆者による定義」から：失われた生活や文化を現代的な形で取り戻す。</li> <li>○「人々の願い」から：地元の人々のクニマスに対する思いや、クニマスとの生活や文化について継承していく。</li> </ul>	

G-3

ア 解釈や考察、予想、自分の考えの形成等の学習活動では、その例を示したい。

終 末 5 分	<p>4 学習を振り返る。</p>	<p>これまで学習してきた「絶滅の経緯」「クニマスを守る条件」「筆者による定義」「人々の願い」の内容も踏まえて、筆者の提言について具体的な意味を考えることができた。 筆者の提言に対して、自分は「納得」した。田沢湖にクニマスが戻るだけでなく、その暮らしや文化の再生も必要だと思った。 今回は、これまでのすべてをまとめるので、ゴールシートへしっかり記述したい。</p>
------------------	-------------------	--

G-4

ア 記述による振り返りを行う際には、目指す振り返りの姿を想定して示したい。